

令和6年度第4回小櫃・上総地区公民館運営審議会会議録

- 1 会議名称 令和6年度第4回小櫃・上総地区公民館運営審議会
- 2 開催日時 令和7年3月18日（火）
14時55分から16時55分
- 3 開催場所 君津市小櫃公民館 研修室
- 4 出席委員 【小櫃地区選出】三橋委員長、丸山委員、荒井委員、栗原委員
【上総地区選出】小泉副委員長、石井委員、小島委員、鳥井委員
事務局 【小櫃公民館】石井館長、藤平副館長、會澤副主査、島津主事
【上総公民館】本橋館長、潤米松丘分館長、相川亀山分館長
森本副館長、早田主査、今井公民館主事、池田主事
- 5 欠席者 なし
- 6 傍聴人 なし
- 7 会議概要 下記のとおり

- 1 開会（進行 藤平副館長）
- 2 委員長あいさつ（三橋委員長）
- 3 小櫃公民館長あいさつ（石井館長）

4 議事

【三橋委員長】

次第に沿って進めてまいりますので、よろしくお願いします。

まず報告事項その1「各公民館事業の中間報告（12月から2月）」について、小櫃公民館から、続いて上総公民館から報告をお願いします。

【藤平副館長】

＊報告資料「令和6年度小櫃公民館事業報告」に基づいて説明。

【森本副館長】

＊報告資料「令和6年度上総公民館事業報告」に基づいて説明。

【三橋委員長】

両公民館からの報告がありました。委員のみなさまからの質疑を受けます。ご意見やご質問がありましたらお願いします。感想でもよいので、いかがでしょうか。

いろいろな事業がありましたが、最初に私から、報告を受けてのイメージ、感想です。参加者の様子など、映像を見たり、参加者人数などをうかがって、この公運審の会議自体も小櫃・上総で一緒に行っていますが、公民館でもそれぞれ同じような事業をやっていること、あるいは、せっかくいい事業をやっているのだから、地域の人たちがもっと参加してくれたらいいのにと感じました。上総・小櫃地区も人口減少で、子どもたちも減ってきているので、そういうことも踏まえ、当地区には公民館的な機能をもった施設が4館あるわけですから、それらを活かす使い方、事業のあり方を研究してみてもいいのではないかと思います。例えば、どこかでお正月用のお飾り作りをしているのであれば、4つの館で1つの事業として実施して、それぞれの地域で作り方の違いはあるかもしれませんが、「伝統的なものを地域に伝えていこう」という意図でやっていけば、地域事業の核にできるのではないのでしょうか。公民館ごとに持っている機能も違いますし、例えば亀山分館でしかできないことをやりつつ、参加者は小櫃から亀山まで募ってみるなど、もう一度検証して見直していくといいのではと思いました。

新年度から組織体制も変わるので、そういう面で1つ取り組んでみても面白いかなと思います。今、コミュニティスクールを立ち上げていますが、20歳のつどいもそうですが、若い人たちは小櫃・上総が中学校統合により一体感が生まれているので、その世代が、これから年齢が上がっていくので、それを踏まえて公民館側でも取り組んではいかがでしょうか。

委員のみなさまはどうでしょうか。丸山さん、いかがですか。

【丸山委員】

青少年相談員の事業もそうですが、小櫃公民館の風揚げももう少し参加者がいたらと

思うし、書道大会なども、小櫃・上総と一緒に合同でやってみてもいいのではないかと思います。

上総公民館の書道大会とお楽しみビンゴ大会、バスハイクは、40人も参加があつてすごいと思います。本当に一大イベントですよ。小学校も、いずれは一緒になるのかなと思うので、今後、小櫃・上総合同で実施することいいのではと思います。

参考までに、自宅で介護している人を対象に、今年度2回、自宅で介護をしている人のお茶会を「介護家族のひろば」として、公民館や東部地域包括支援センター、生活支援コーディネーターと一緒に実施しました。私も参加しているのですが、上総地区の方から参加の問い合わせがありました。そこでも、上総地区の方にも来てもらいたいということで、チラシの回覧範囲を広げようと考えています。情報として提供するの、私たちの役目だと思います。口コミでも広がるとは思います、上総地区にも東部地域生活支援コーディネーターも民生委員もいるので、エリアを広げて、みんなに来てもらいたいと思います。

それと、冬休みの書道の宿題は、出さなくてもよくなったのですね。

【栗原委員】

小学校はわかりませんが、中学校では授業で書道を行っています。

【三橋委員長】

小島さん、いかがですか。

【小島委員】

私は青少年相談員として活動していますが、3月いっぱい任期が終了します。バスハイクは、有名なところに行ってこんな楽しいイベントがあるよ、という周知活動としても実施しました。行き先が上野動物園ということで、すぐに予約がいっぱいになり、バスの定員もありましたので、キャンセル待ちの状態となりました。6年生にとっては最後となりますが、5年生から1年生までの子どもたちには、これを機に、次年度以降も青少年相談員のイベントにも参加してもらいたくて、上野動物園というメジャーな場所を選びました。

書道大会については毎年実施しています。バスハイクほどではありませんが、20名程度の参加がありました。青少年相談員も、焼きそばやたこ焼きなどのお昼を用意して、こちらも楽しんで実施しています。私は今期で終わりになりますが、引き続き、今年度のメンバーと協力して、文化祭は、分館まつりを含めて4日間あるので、お手伝いしながら関わろうと考えています。

青少年相談員も地区によっては人が出せない地区もあるようです。昨年、小櫃公民館と一部合同でキャンプを実施しました。結局は、宿泊場所だけ一緒ということになりました。上総の相談員のキャンプスキルがまだ低くて、小櫃の相談員に合わせるのが難しかったのですが、少しずつ歩調を合わせられればいいなと思います。

小櫃はお隣の地区ですし、子どもも習い事などは一緒の場所で活動しています。親同士も仲良くなればと思います。

凧作りもカトリック幼稚園でも毎年実施しています。三橋委員長がおっしゃっていたように、地区を分けずに少しずつ、子どものうちから一緒に取り組めればいいのではと思います。

【三橋委員長】

いかがでしょうか、石井委員。

【石井委員】

私は亀山の事業に参加しました。11月26日にヨガを体験しました。亀山以外の同級生も参加していて、いいことだと思いました。私の地区では、一番若くても50代しかいないため、青少年相談員のなり手がいません。子どもも一人もいません。「上総の“山”と“歩く”を楽しむ教室」では、松丘の古城めぐりに参加しました。知らないところはたくさんあります。千本城は知っていましたが、大戸城は知りませんでした。松丘分館でも松丘探検隊がありますが、いろいろと歩いています。亀山地区も自分たちで「里山ウォークの会 亀山」というのを立ち上げて、公民館事業とは別ですが実施しています。久留里、松丘、亀山は歴史的なところがたくさんありますので、そういうところを事業の題材としてもいいと思います。

【小島委員】

行き先の候補はあっても、道が整備されていなかったり、倒木があったりで、行けない箇所も多いと聞きます。

【石井委員】

先発隊が行って、チェーンソーなどで木を切って整備していると聞いています。

【三橋委員長】

小櫃でも体育協会が中心になって「おしゃべりウォーク」というものを行っています。地元に住んでいながら、もっと地元のことを見てみたい、でも一人で行くには道がわからない、そもそも入っていいのかな、と心配する方もいるようなので、公民館がきっかけを作ってくれば、その当日だけでなく、下見をして下草を刈ったりする活動につながります。

公民館の利用が少ない50代から60代など体力のある世代は、公民館館内での活動よりも館外での活動、歩く活動などに関心が高いと思います。そういうことも含めて、いま報告をいただいたところからヒントが見えてくるかと思います。

【荒井委員】

三橋委員長、丸山委員が言うように、各公民館ほとんど同じような事業なので、年2回か3回合同で実施して、移動手段の問題はありますが、マイクロバスなど出して、お飾り作りなど一緒にやってもいいのでは、と思います。

先ほど、報告のあった「カーレット」ですが、私も含めて高齢者でもできるのではと思いました。

【島津主事】

カーレットは周南公民館の認知症カフェ「ほっとサロン」で使っていたものをお借りしました。周南公民館では高齢者でもよく使っているとのこと。

【荒井委員】

参考ですが、地区社協でも「モルック」を講堂で実施しました。モルックは投げてプレイしますが、カーレットもいいなと思いました。最終的には移動手段の問題が出てきますが、それが解決されればもっと人は来ると思います。

【三橋委員長】

小櫃・上総地区公民館運営審議会が、今、何か一緒にやろうというテーマになれば、会議そのものが活性化していくと思います。報告を受けて感想・意見をただ述べるだけでなく、職員と一緒に地帯の公民館を運営していこうという方向性になれば、協力体制もできてくるのではないかと思います。

では、次に移りたいと思います。報告事項その2「20歳のつどい」について、まずは令和7年1月実施の「20歳のつどい」の報告です。お手元の館報を併せてご覧ください。では小櫃公民館、続いて上総公民館と久留里・松丘・亀山地区それぞれお願いします。

【會澤副主査】

＊報告資料「令和6年度小櫃公民館事業報告」に基づいて説明。

【森本副館長】

＊報告資料「令和6年度上総公民館事業報告」に基づいて説明。

【三橋委員長】

ありがとうございました。では次に、令和8年1月実施の「20歳のつどい」について事務局から説明をお願いします。

【會澤副主査】

次年度のつどいについて、もう一度資料「令和6年度小櫃公民館事業報告」10ページをご覧ください。

以前も報告させていただいたように、事務局は小櫃公民館と上総公民館で2年ごとに持ち回りをしていきます。次年度は、小櫃公民館が事務局となりますので、「課題」として書かせていただきました。

次年度から、久留里、松丘、亀山と小櫃の4地区が統合したつどいとなるわけですが、会場は、上総小櫃中学校で開催する方向で準備をしています。

統合開催に向けて、いくつもの課題を解決していく必要がありますが、まずは、実行委員会の体制作りです。統合初年度の対象者は、上総小櫃中学校開校当時、3年生だった世代となりますが、コロナ禍で制限のあるなかでの学校生活だった関係で、「共に過ごした」という感覚がどこまで持てているのかが心配されます。基本的には実行委員は手挙げ方式となりますが、実行委員会が動き出すまでは、ある程度、公民館を通じて、当時の生徒会メンバーや公民館のネットワークによる声かけが必要と考えています。

来賓・恩師につきましても、統合開催が各地域になじむまでは、ある程度、人数が多くなってしまうのもやむを得ないかと思います。このあたりは、結成した実行委員の意見も尊重しつつ、地域感情にも配慮していけるよう、各公民館でアンテナを高くして調

整していければと思います。

そのほか、4地区が統合する関係で、例えば、会場内の暖房の問題や壇上の花の手配などをどうするか、各地区で取り組んできたつどいの流れをどのように継承、あるいはリニューアルしていくのか、実行委員と歩調を合わせつつ早め早めに検討していければと思います。

すでに、今年度、周東中学校区として小糸地区と清和地区が統合開催していますので、そこでの情報も参考にしながら、この小櫃・上総地区に合ったつどいとなるよう、参加した・関わった新成人が、地域の大人の仲間入りが果たせるよう、進めてまいりますので、引き続きよろしくお願い致します。

事務局からは以上です。

【三橋委員長】

いま、令和7年1月と令和8年1月の20歳のつどいについて報告説明をいただきましたが、委員のみなさまいかがですか。

【小泉副委員長】

課題もはっきり示していただいたので、周東中学校区の例を参考に実施していただければと思います。

【三橋委員長】

鳥井委員、いかがですか。

【鳥井委員】

特に大人が心配することもないかと思いますが、実行委員も成人した方なので、中学校時代とは別の感覚をもって取り組むと思うので、意外と心配しなくても進むのではと思います。

【三橋委員長】

栗原委員、統合した中学校の子どもたちですが、校長の立場でいかがでしょう。

【栗原委員】

会場校になるので、早めに伝えていただければと思います。自家用車で来る人も多いと思いますが、駐車場は70台のほかグラウンドも使用できるので、学校とコミュニケーションをとって実施してもらえればと思います。統合当時の職員が次年度もまだ数名いると思いますので、問い合わせしてもらいたいと思います。

【三橋委員長】

会場が公民館ではなく中学校になりますので、これからよく連絡調整をしてもらいたいと思います。

続きまして、「意見書」の提出です。

令和5年度・6年度と2年間にわたり「地域活性の拠点としての公民館運営・事業のあり方について」みなさまと審議を重ねてまいりましたが、その集大成としての「意見書」を石井館長・本橋館長へ提出いたします。

両館長、前の方へ移動していただけますか。

＊三橋委員長・小泉副委員長から小櫃・上総両公民館へ意見書「地域活性の拠点としての公民館運営・事業のあり方について」を提出

【石井館長】

慎重審議、時間をかけていただいたおかげで、議論の集大成となったと思います。ありがとうございました。

【本橋館長】

この意見書をいただくことが目的ではなく、これを元に、もっともっと地域活性に寄与できる公民館のあり方を深めていければと思いますので、今後ともよろしく願います。

【三橋委員長】

ただいま両館長へ「意見書」を提出いたしました。

これで、われわれ委員の役割も無事に終了となるわけですが、せっかくの機会ですので、委員のみなさまお一人ずつから、感想などいただきたいと思います。まず私から感想を申し上げたいと思います。

意見書をまとめましたが、このなかで、一番わかりやすくイメージを示したのが、4ページと5ページで、ここに大切なことが書かれていると思います。「楽しさを感じながら活動できる工夫」ですとか、「関係者・当事者を把握し、つなげ、広げていくことが重要」という表現ですね、私としてはわかりやすいと思います。

一つの例として、自治会の集まりや田んぼの共同草刈り作業の場で耳にしたのですが、公民館利用率の低い60歳代の小櫃の人たちが、かずさアカデミアパークにあるスポーツジムにけっこう通っていて、その目的は健康診断で指導された健康の保持や体力づくりなどですが、そこでは器具を使ったりプールでのトレーニングだけではなく、ダンスなども行うそうで、同じような仲間が集い楽しい時間を過ごしているようです。

また、この年代のひとたちはその年齢に至るまで、いろいろなことをやってきているので、ここでの出会いからつながりができて、ジムを離れても様々に作用し合って別の活動も派生しているようです。公民館ではないところにある、公民館的な機能の事例を紹介させていただき、意見書への思いと感想とさせていただきます。

【小泉副委員長】

「『たのしむ』なかで気づき」という言葉が印象的です。「たのしむ」だけでなく、気づくことは何においても大事だと思います。実際にはなかなか気づけないと思いますが、公民館の方でいろいろな情報を発信したり、また事業をしていただくことで、市民のみなさんが楽しんで、いろいろなものが発生していくといいと思います。どの団体もメンバーが高齢化していくので、公民館職員の協力を得て、やっていかなければと感じます。

小櫃公民館の「ちょボラの会」の活動、絵本を置く場所をロビーに変更した、などの報告に、20年以上前に私が図書ボランティアを立ち上げた当時、いかに子どもたちの足を図書室に向けられるか、様々なアイディアを出したことを思い出しました。大変なことだと思いますが、小櫃・上総という括りではなく、まず場所の括りを大きくして、世代の垣根も超えてやってもらえればと思います。

【丸山委員】

今、小泉副委員長も言っていましたが、『たのしむ』なかで気づき」というところで、公運審として、いろいろと関わるなかで、挑戦させていただき、体験させていただき、「気づき」、「学び」、「楽しい」と思っています。公民館だよりでも自分の名前が出ていると周りから大変だねと言われますが、やってみて楽しんでいます。私の楽しんでいる姿を地域に示していきたいと思います。

最近、小櫃公民館の事業をとおして、ちょボラの会の活動もそうですが、若い人の感覚が、私たちが今までやってきたものと違うなと感じています。私たちのときは先輩たちのやってきたことを同じようにやって、次につないでいく世代でしたが、若い人の感覚が入ると、こんなにかわいく、楽しく、いい感じのレイアウトなどになっていくので見習っていききたい、頭を柔らかくしていきたいと思います。公民館が本当によくなっていると思うので、また携わっていきながら、自分も楽しんできたいと思います。

【荒井委員】

いろいろとお世話になりました。委員になって、小櫃地区だけでなく、久留里、松丘、亀山にいろいろな方や著名人がいることを知りました。私自身も勉強になりました。

【栗原委員】

2年間を通して、地域のコミュニティの拠点となる公民館を地域のみなさんが力を合わせて作っていることがわかりました。楽しい公民館、いろいろと大変と思いますが、地域の方にとって、よい公民館を作ることは続けてもらいたいと思います。

『上総公民館だより』を見て驚いたのが、上総の人口が10月末から1月の3ヶ月でマイナス72人なのですね。年間でいうと単純計算で280人、10年で2,800人、20年で5,600人…となると、人がいなくなってしまうのではと心配されます。あくまで単純計算ですので、そんなことはないと思いますが…。今いる地域の人の楽しみも必要ですが、20歳を迎えた方のような若い人が今後この地域に残るような地域を作っていくと、人がいなければどうにもならないと思います。いま私は全力で、子どもたちが地域に残るにはどうしたらいいかを考えて取り組んでいます。コミュニティスクールが中学校で始まりましたが、「地域の祭りなど参加しましょうね」と全校集会や学校だよりなどで発信していますが、なかなか意識がいかないというのが事実です。昔は学校の行事なら土日でも、先生が仕事以外で引率して行きましたが、なかなか今はそれができませんので、子どもたちが地域に根付いて、地域の良さを知っていこう、地域のために力を尽くそうとなるには、学校としてどうしたらいいか、コミュニティスクールが今年始まってずっと考えています。公民館と力を合わせて取り組んでいきたいと思います。

【鳥井委員】

2年間ありがとうございました。事業の内容としては、仕事を引退した後いろいろなと楽しめそうなので参考になりました。

先ほどから話が出ていますが、子どもを育てている世代が対象の事業に関しては、共同開催をしていただけたらと思います。私は他県から移り住んで、右も左もわからず、知り合いもいませんでした。子どもに掛かりきりになると、人とのつながりは希薄にな

るので、共同開催で会場を変えながら実施することで、若い世代の定住人口につながっていくのではないかと思います。

【小島委員】

私ごとですが、振り返ってみれば、子どもが生まれて、そのことで青少年相談員として公民館とのつながりができて、そこから副館長に声を掛けてもらい公運審委員となり、みなさんにつながることができました。人と人がつながることで、何か変わるかもしれない。いろいろな学びもありますし、知識もあります。これからも公民館が地域の中心として子どもたちや、人と人が出会いやすい場所を提供してもらいたいと思います。

【石井委員】

意見書3ページの①『多様な年代が「つどう」場づくりと運営に「かかわる」仕掛けづくり』について、非常に難しい年代にきていると思います。高齢者といっても65歳から80歳までは、働いている人がほとんどで、遊んでいる人はほぼいません。90代になると施設に入ってしまいます。

そんななか、見学させていただいた「おびつスマイルサロンいーね」には感心しました。幅広い年代が参加して、楽しそうにしていたのを見て羨ましいなと思いました。80歳前後の方がいて、いいことだと思いました。

多様な年代がつどうには厳しい時代で、働いている高齢者が公民館に来るのは難しいと思いますし、若い世代の取り込みもどうするかですね。

私はもともと久留里出身で、久留里から亀山へ移り住んだのですが、仕事の行き帰りだけでほとんど地元とのつながりがなかったところ、公運審の委員や自治会の活動で、人とつながることができました。

公民館運営のあり方については、3つの項目（①多様な年代が「つどう」場づくりと運営に「かかわる」仕掛けづくり、②関係者が「つながる」仕掛けと広がり、③「たのしむ」なかで気づき、深まる「まなび」を生み出し、暮らしを「拓く」）を挙げましたが、実行に移すとなるとなかなか難しいと思います。これからも頑張っていたきたいと思っています。

【三橋委員長】

ありがとうございました。それでは事務局に進行をお返しします。